

ヒューリックロジスティクス野田Ⅰ		No. 22-022-2024作成	
HULIC LOGISTICS NODAⅠ		新築	
		工場・物流施設	
発注者	ヒューリック株式会社	カテゴリー	
設計・監理	前田建設工業株式会社一級建築士事務所	A. 環境配慮デザイン	
	MAEDA Corporation	B. 省エネ・省CO2技術	
施工	前田建設工業株式会社東京建築支店	C. 各種制度活用	
		D. 評価技術／FB	
		E. リニューアル	
		F. 長寿命化	
		G. 建物基本性能確保	
		H. 生産・施工との連携	
		I. 周辺・地域への配慮	
		J. 生物多様性	
		K. その他	

BELS認証にて『ZEB』評価を受けた地球環境にやさしいサステナブル物流施設



ヒューリックコーポレートシンボル（ロゴマーク）を3色のパネルにて表現した西側外観

汎用性、就業者に配慮した機能性を備えた物流施設

本物件は「ヒューリックロジスティクス」シリーズの第2号物件である。常盤自動車道の柏ICから約6.2kmと、野田市内でも柏ICに近く、大都市間の中継拠点や消費地への配送拠点として魅力ある立地となっている。

配棟計画は国道16号と県道46号の交差点側を正面に、敷地形状に合わせて雁行形状に計画。交差点側にトラックバースを計画し、国道側・県道側の2面に大型車出入口を設け、スムーズな入出庫に配慮した。

平面計画は2テナント対応とし、それぞれ荷物用ELV2基（計4基）、垂直搬送機2基（計4基）をバランス良く配置し、テナント区画ごとに独立したトラックバース、荷受事務所、エントランスホール、事務所を計画した。4階には筑波山を臨む入居者専用カフェテリアを設け、快適な労働環境をサポートする。



南側外観



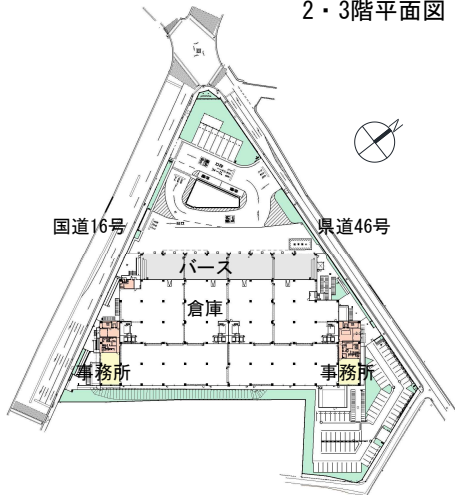
南西側外観



4階平面図



2・3階平面図



配置図 縮尺1/4000

建物データ		省エネルギー性能		CASBEE評価		
所在地	千葉県野田市	BEI値	0.39	Aランク		
竣工年	2023 年	LCCO ₂ 削減	58%	BEE=2.4		
敷地面積	18,317㎡	ZEB認証		2021年度版		
延床面積	33,795㎡	BELS認証	★★★★★	第三者認証		
構造	1～3階柱:RC造、梁及び4階柱:S造					
階数	地上4階					

『積み重ねる』をキーワードとしたデザイン計画

内装デザインは、モノ・事業・歴史・信頼を未来へ積み重ねていく意味を込め、デザインキーワードを「積み重ねる」とした。

エントランスホールは「煉瓦ブロック」を積み重ねることで野田市の歴史的な建築物との親和性、風格を表現した。4階カフェテリア「PALLET LOUNGE」ではパレット古材を再利用したアイキャッチルーバーやカウンターを採用し、ソファ等を配置し快適性のある空間とした。

倉庫のサイン等にはコーポレートカラーを採用。交差点側には本物件と近接して建設中（2025年2月竣工予定）の「ヒューリックロジスティクス野田Ⅱ」と併せた視認性のある施設案内サインを計画した。各階のELVホールには「積み重ねる」から連想される階数表示サインをスチールプレートにてデザインした。



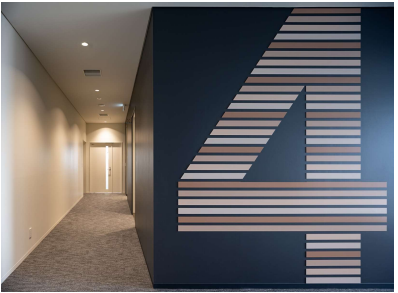
エントランスホール



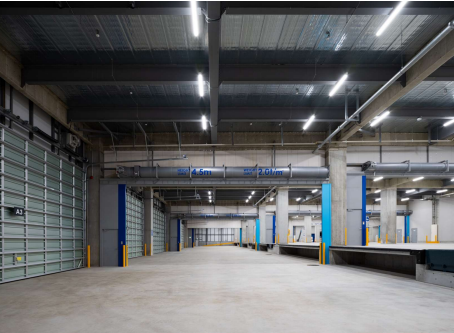
カフェテリア（PALLET LOUNGE）



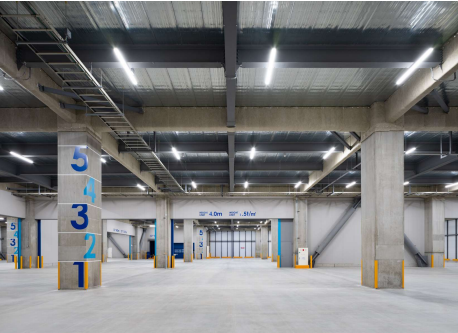
施設案内サイン



ELVホールの階数サイン



バース



倉庫



カフェテリア（PALLET LOUNGE）

防災&BCP・環境性能・サステナビリティにまで配慮した設備・仕様を採用

構造架構形式は、1階から3階は柱RC造・梁S造のハイブリット構造を採用し、アンボンドブレースを使用したブレース併用ラーメン構造とした。4階は柱・梁S造の鋼材ブレース併用ラーメン構造とした。床耐荷重は1.5t/㎡、梁下有効天井高5.5mを確保している。床スラブのコンクリートの配合では、膨張材を添加かつ粗骨材として石灰岩碎石を100%使用し乾燥収縮ひび割れの抑制を図った。設備は、将来的に全館作業空調、マテハン設置にも応じることが出来る拡張性の高い計画とした。BCP対応として2回線受電（本線予備線方式）、非常用発電（72時間相当）等を採用。全館LED、節水器具採用など省エネに配慮した計画とし、屋根全面に太陽光発電設備を実装することでBELS認証にて『ZEB』の評価を受けた。



ドライバーズラウンジ



女子トイレ



太陽光発電設備

設計担当者 前田建設工業株式会社一級建築士事務所／建築：山軒敏一、黒木淳、大河原久雄、三村卓矢／構造：櫻井輝雄、池上昌志、横川智裕／設備：加賀清一、部屋隆弘、石田麻里奈

主要な採用技術（CASBEE準拠）	
Q2. 2.	耐用性・信頼性（建築基準法に定められた25%増の耐震性能、非常用発電機の設置、受電設備の二重化、浸水対策）
Q2 .3.	対応性・更新性（地震・架構用も含め50%以上の割増、構造材・仕上げ材共に痛めずに更新・修繕が可能）
LR1. 3.	設備システムの高効率化（BEIm=0）
LR2. 1.	水資源保護（自動水栓・節水型便器等を採用）
LR2. 2.	非再生性資源の使用量削減（躯体と仕上材が容易に分別可能な構造、0Aフロアの採用）
LR3. 1.	地球温暖化への配慮（LCCO2排出率58%）